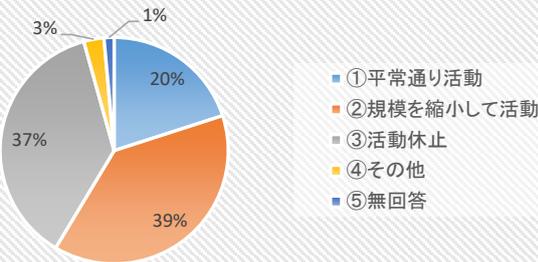


新型コロナウイルス感染症対策に関わるアンケート集計結果

アンケート実施時期(令和2年11月~12月)

配布数:56団体/27個人 回答数:52団体/18個人

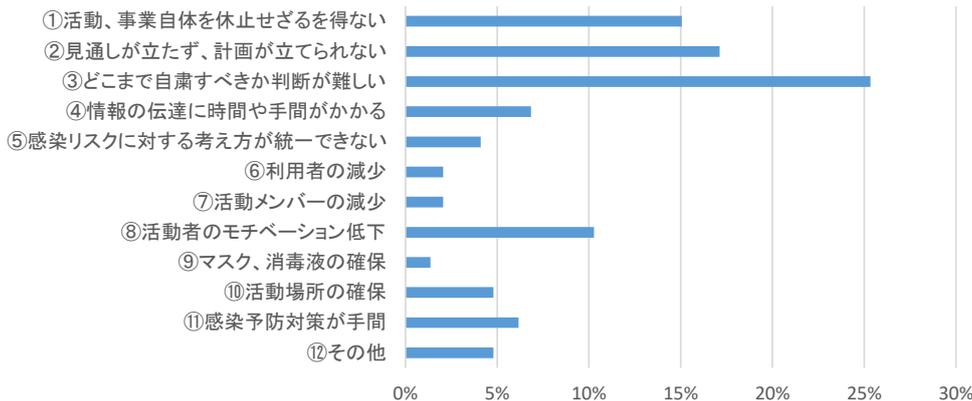
Q1 コロナウイルス感染拡大の影響でボランティア活動は現在どのような状況？



(その他の意見)

- ・団体の活動は平常通りだが、ボランティア活動は施設側から断られている以上、活動できない

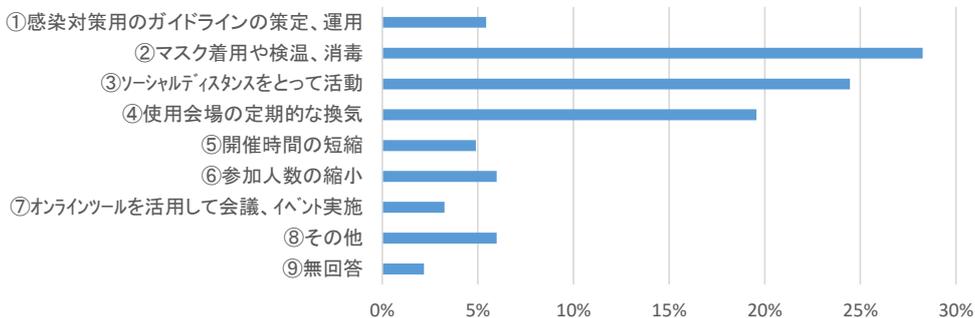
Q2 感染拡大の影響下、ボランティア活動を継続するうえで困ったこと、悩んでいることについて教えてください。(複数OK)



(その他の意見)

- ・感染リスクに対する考えが様々ではあるが、なるべく慎重な意見に合わせていくべきかもしれない
- ・活動している会場の机が不足しているため、毎回倉庫からの移動が大変

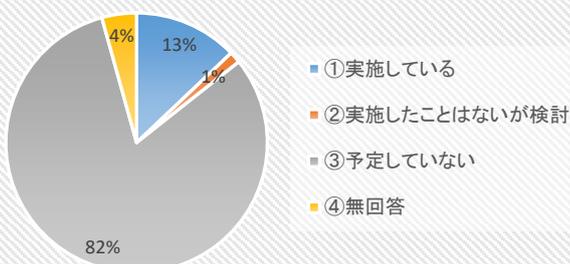
Q3 活動再開にあたり感染予防のためにやっている対策や工夫について教えてください。(複数OK)



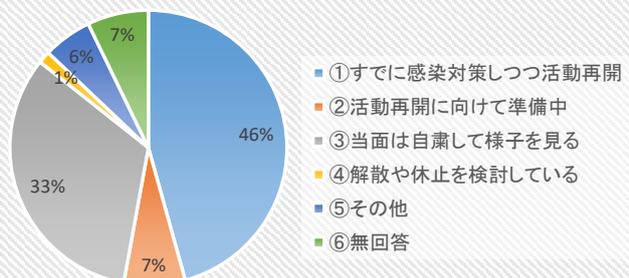
(その他の意見)

- ・連絡はメールやLINEで行う資料などは会わずに個別配付している
- ・活動場所の変更(今までより広い会場を借りる)

Q4 オンラインツールを利用して会議やイベントを実施していますか？



Q5 今後の活動の見通しは？



Q6 具体的に希望する支援策や必要だと思ふことがありましたら教えてください。

- ・ 見守り、定期的な安否確認
- ・ 外出できないときだからこそ連絡を取り合えるような方策が必要だと思ふ
- ・ 従来より広い部屋での活動となっているため、コミュニティセンターなどの利用可能スペースの情報が欲しい
- ・ コロナ禍に特化した希望は特にない。事業元や地域に関わらず広くボランティアを共有することが、より有意義な活動に繋がると思ふ。
- ・ 手指消毒専用の消毒液が欲しい
- ・ 活動資金を生み出すバザー等も中止になり、長期活動の資金不足が悩み、支援をお願いしたい。長期戦となるコロナ禍の中、高齢者が主な活動家なので、一段と元気な活動ができるような工夫が必要だと思ふ。
- ・ 今後、コロナがなくなるとは思えない状況であるため、早急にオンラインの使用を進めていく必要があると考えている。今回、4月からオンラインに踏み切ったことで、活動にほとんど支障なく進めることができた。また、市との協働事業についても、通信教育のような方法を取るなどしたため、体調等で離れることはあっても会員が活動をあきらめることはなかった。形にこだわらず、できることを見つけることが大切。よって、ボランティアセンターなど早めに情報発信をしていくことが必要と考える。それには、担当者も他市や他県、印西市以外の企業、団体との繋がりをもったり、研究するなど、日頃から各団体より、先をいく勉強をする必要があるのではないかと。

Q7 このような状況下だからこそ新たに気付いた点など、プラス面として捉えられることが何かありましたら教えてください。

- ・ ステイホームと家にいる事が多く、外部の刺激の大切さ、人との接触、語り合いの大切さを痛感した。
- ・ マスクをしているのでいつもよりコミュニケーションをとるよう努力している
- ・ 常に健康に留意する生活の在り方を考えられるようになった。
- ・ 作業方法についてその都度メンバーで意見を出し合い、作業時間の短縮や作業方法の改善に結びつけることができた。
- ・ オンラインにするにはPCを使っていない人が多くて難しいので、スマホのグループLINEをつくり、サークルに関する情報を流している。グループLINEに入っていない方にはメールや電話、サークル新聞で情報を伝達している。(緊急連絡用でもある)
- ・ 毎年福祉まつり等の行事での発表のために、秋の活動は出し物の練習が中心だったが、今年は行事がなくなったので、本来の手話の勉強と交流が可能になった
- ・ 訪問演奏ができない状態になってしまったので、演奏している動画を撮影して訪問先の施設へ配布したり、YouTubeチャンネルを新たに開設して公開したところ、思わぬ反響をいただいた。
- ・ 若いメンバーがメンバー全員の健康のことを考えてくれていることがわかり、うれしくなった。
- ・ 本当に必要なことと、なくても構わないことの選別が、ある程度わかってきた。
- ・ 通常の活動中は会場で利用者さんたちとゆっくり話す機会のはあまりなかったが、活動休止の今、連絡・安否確認、近況伺いのため、電話でお一人お一人と話ができるのはよかったと思ふ。
- ・ 違った方向からの活動を考えるよい機会ととらえたい。
- ・ 時間がとれるようになり、新たなチャンスと考え、新しい作品作りに動き出すチャンスになった

Q8 今回の新型コロナウイルス感染拡大に関連して感じたことなど、自由にご記入ください。

- ・ コロナに感染した人数だけ発表されて不安になる。治った人も記事に載せて欲しい。
- ・ 個人ボランティアとして登録してるが声がかからない(活動の場がない)
- ・ コロナ禍になり、ろう者には一段と厳しい世の中になっている。人々がマスクをしているため、誰が話しているのか、何と言っているのかわからない不安は、コロナによる不安と重なり健聴者には理解できないつらさだろうと推測される。彼らのためにもサークル活動を地道に続けていくべきだと思う。
- ・ メンバーみんな、月に一度の定例会を楽しみにしているのでモチベーションが下がらないように、楽しく続けられる内容を考えたいと思っている。
- ・ 具体的な発表の場が持てなくなった今、モチベーションを維持するのが大変になった。
- ・ 介護施設のみのボランティアサークルなので、新型コロナで身動きが取れない。
- ・ 活動再開のメドがたたず、あまり長期間の活動停止になると高齢化(平均年齢72歳)している会員のモチベーションの低下が何よりも気がかりである。
- ・ 利用者さんは高齢の方がほとんどなので、長期間会えないと病気になっていないか、痴ほうが始まっていないか、コロナが収束して活動が再開しても、出てこられなくなっている方がいらっしゃるんじゃないかと心配している。
- ・ 感染した人は本来被害者なのに自業自得として差別してしまう風潮を強く感じる。敵は人ではなくコロナ。
- ・ 今までの普通の生活がいかに大事だったかということを感じている
- ・ 施設訪問、小学校でのお手伝いがすべてキャンセルになり、活動ができずとても残念である。希望と元氣をお届けに一日も早く再会できるよう、切に望んでいる。
- ・ コロナ禍にあってますます人と人とのつながりを強めることが重要となったと思われる。今後、活動の形態が変わったとしても、外国人市民に希望を与えられるような活動を進めていきたい。
- ・ 活動の対象が小学生児童であり、このウィルスのすべてのことに結論が出ていない状況なので無理はできない状況。ガイドラインに沿った活動しかできないが、対象の子どもたちに少しでも笑顔の生まれる場の提供をして行きたいと考えている。
- ・ 団体メンバーにお会い出来ない期間が長くなり、心配する事が多くなった。人と人が会い、会話しお互い励ましあう事がいかに大事か痛切に実感した。
- ・ 日頃のネットワークの大切さを感じた。幅広く、いろいろな方と繋がることで、情報も入りやすくなる。ワークショップをオンラインで開催したところ好評で、参加者の感想から、オンラインも居場所に成り得ることも実感した

～アンケートにご協力いただきありがとうございました～

(たくさんのご意見をいただきましたが、紙面の都合上、抜粋して掲載させていただきました)

